



International Network
of Museums for Peace

ジェネラル・コーディネータの デスクから

2019年3月25日

第11号



Ikuro Anzai, Ph.D.

Honorary Director, Kyoto
Museum for World Peace

INMP's new address: inmpoffice@gmail.com

Please access to our website: click [here](#)

第10回 INMP 会議組織委員会が近々スタート

運営規程も合意して

日本では4月に統一地方選挙があり、7月には参議院銀選挙が予定されています。そうした慌ただしい状況の中でも、第10回国際平和博物館会議の準備は着々と進められており、5月には公式の組織委員会が立ち上げられるでしょう。すでに、組織委員会の運営規程も合意されています。

共催者の一つである京都精華大学は、国際会議に際して特別の漫画展を企画していますが、精華大学は京都市とともに国際マンガミュージアムを共同運営しています。

2月12日、国際マンガミュージアムの館長室において、漫画特別展の打ち合わせ会議が開かれ、安齋肇さん（イラストレータ）、しりあがり寿さん（漫画家）、安齋育郎（INMP）、山根和代さん（INMP）、吉村和真さん（京都精華大学）、田中遊さん（国際マンガミュージアム）が出席しました。

打ち合わせでは、最終的に特別漫画展のテーマを「へいわ／ボケ漫画展」とすることとしましたが、「へいわ」は英語で言えば「ピース」。「ボケ」は英語では「不感症になること」という程の意味です。したがって、「へいわ／ボケ」は「それなりの期間“平和”が続いた結果、平和の問題に不感症になること」を合意しています。

私たちは著名なプロの漫画家に「へいわ／ボケ」のテーマに関する作品の提供を要請するとともに、一般公募も行なう予定です。一般公募作品の選考に当たっては、京都精華大学のウスビ・サコ学長（アフリカのマリ出身）にも加わって頂く予定です。

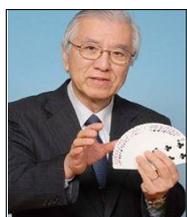
次回の打ち合わせ会議は4月5日に立命館大学大阪キャンパスで開かれます。



安齋肇



しりあがり寿



安齋育郎



ウスビ・サコ学長



山根和代



吉村和真



田中遊

愛吉・すずのバラが 平和ミュージアムの前に咲きました

次頁の写真のバラは「愛吉・すずのバラ」です。久保山愛吉さんは1954年3月1日にアメリカがビキニ環礁で行なった水爆実験の被災船「第五福竜丸」の無線長で、23人の乗組員が爆心から約160km

離れた場所で作業中に強い放射性降下物にさらされました。



約半年後の1954年9月23日、久保山さんは放射線障害と輸血に伴い肝機能障害の合併症で、国民注視の中、帰らぬ人になりました。

久保山さんはバラ愛好家で、静岡県焼津の自宅の庭でバラを栽培していました。愛吉さん亡き後も、妻のすずさんがバラの世話を受け継ぎました。

私は1993年7月、原水爆禁止運動の仲間とともに、国際平和ミュージアムを代表して病床のすずさんを見舞いました。すずさんは自ら庭に出て、バラを株分けしてくれました。

国際平和ミュージアムはこのバラに「愛吉・すずのバラ」と名づけ、4半世紀以上に渡ってお世話をしてきました。このバラは、全人類に対する暴力の象徴である核兵器への抵抗のシンボルと言えるでしょう。

アメリカの映画監督のキース・レイミンクさんが『西から太陽が昇った日』という第五福竜丸の物語を映画化したことも注目されます。

「ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の理事会が2020年の第10回INMP会議への参加を討議しました

山根和代博士も私・安齋も、「ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の理事を務めています。この会は2011年、大江健三郎さん（ノーベル文学賞受賞者）、安齋育郎（放射線防護学者）、肥田舜太郎さん（被爆者、元軍医）および岩佐幹三さん（被爆者）の呼びかけで結成されました。

「ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会」は東京都認可のNPOで、結成以来、きちんと運営されてきました。

2019年3月9日、2018年度の第3回理事会が東京で開催され、若い理事も参加して2020年の第10回INMP会議への参加をめぐって討議しました。



ノーモアヒバクシャ記憶遺産を継承する会の理事会
(2019年3月9日、東京・四ツ谷)

私は「継承する会の」の副代表理事として、この会が、「次世代への記憶の継承と平和博物館の役割」をメインテーマとして開かれる第10回INMP会議に積極的に参加するよう提案しました。

理事会は最終的に第10回会議への参加を、来る5月25日に開かれる総会の議案に位置づけることを決定しました。



**大学での軍事研究に反対するシンポジウムが
2019年3月10日に開催されました**

2019年3月10日、立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホールで、大学での軍事研究に反対するシンポジウムが開かれ、約80人が参加しました。シンポジウムのテーマは「大学を蝕む軍事研究—安倍政権下の科学技術の危機と科学のあるべき姿」でした。二人の科学研究者が基調講演を行い、コメントと参加者による活発な意見交換が行われました。

現在、日本の学界は「軍事研究」に反対する姿勢を示していますが、研究者の中には防衛省や米軍からの研究資金に惹きつけられる人々もいて、学会も有効な規制措置を打ち出せていません。加えて、「イノベーション」のお声がかかりで軍事目的にも平和目的にも応用できるような技術の開発を奨励する傾向も見られます。研究資金だけによって単純に判

断することは難しくなりつつあり、研究者はゆるやかに動員されつつあります。



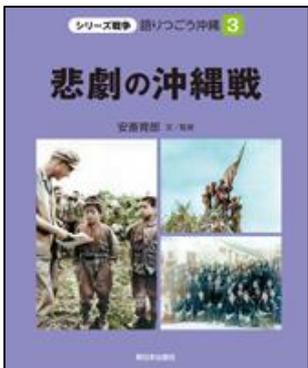
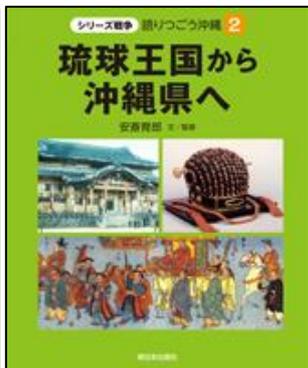
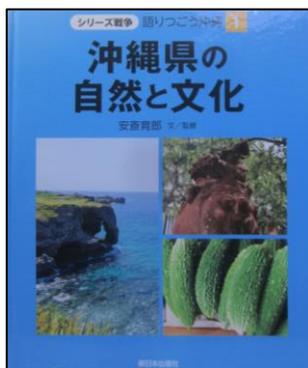
2019年3月10日、国際平和ミュージアム中野記念ホールで開催された軍事研究に反対するシンポジウム

シンポジウムに先立って、20人程の参加者たちは、市民ボランティア組織である「平和友の会」のメンバーによるガイド付きで、国際平和ミュージアムを参観しました。

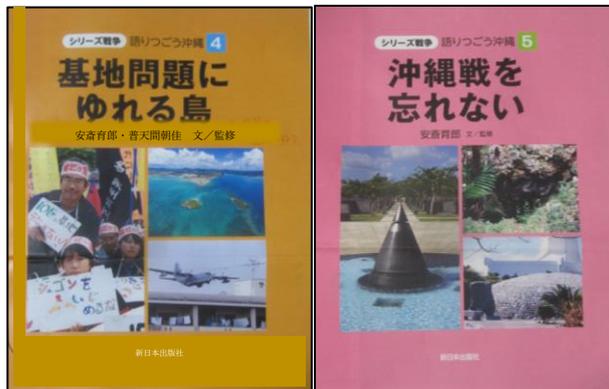
国際平和ミュージアムはこのシンポジウムに協賛して会場を無償で提供するとともに、私が名誉館長として冒頭に歓迎の挨拶を行ないました。

沖縄 5 巻本『語りつごう沖縄』がひめゆり平和資料館の普天間朝佳館長の協力も得て完結

新日本出版社が企画している『語りつごう沖縄』全5巻が2019年3月に完結しました。



- ・第1巻「沖縄県の自然と文化」(安齋育郎)
- ・第2巻「琉球王国から沖縄県へ」(安齋育郎)
- ・第3巻「悲劇の沖縄戦」(安齋育郎)
- ・第4巻「基地にゆれる島」(安齋育郎・普天間朝佳)
- ・第5巻「沖縄戦を忘れない」(安齋育郎)



この本は小中学校の子どもたちを読者対象に書かれており、学校図書館への普及が期待されています。

第1巻は「沖縄の自然と文化」、第2巻は「琉球王国から沖縄県へ」、第3巻は「悲劇の沖縄戦」、第4巻は「基地にゆれる島」、第5巻は「沖縄戦を忘れない」で、第4巻は私・安齋と普天間朝佳ひめゆり平和資料館館長の共著です。第5巻では平和教育に役立つ沖縄の記念碑は平和博物館を紹介しています。

下図は沖縄の米軍関係者が起こした性犯罪の年間発生数の変化です。

沖縄駐留米軍関係者の性犯罪件数



沖縄県知事室の2016年度までの統計データによると、1972年に沖縄が日本に返還されてからの米軍の航空機関係事故が709件、軍事演習などに伴う山野火災の消失面積が381,163,866平方メートル、米軍関係者の検挙件数5,919件で、そのうち凶悪犯罪が576件となっています。

沖縄県民と本土の人びととの間には米軍基地問題の深刻さに対する認識に大きなギャップがあります。著者としては、本書がそうしたギャップを埋めるのに役立つことを願っています。

第5巻では数多くの慰霊碑や記念碑、沖縄戦で避難壕や司令部や病院として使われた自然洞窟、さらに、多くの「平和のための博物館」関連施設を紹介しました。それらには、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆり平和資料館、対馬丸記念館（米軍の潜水艦による攻撃で沈没した疎開船の悲劇の博物館）、ヌチドゥタカラの家、不屈館、沖縄平和祈念堂、沖縄愛楽園交流会館（ハンセン病に関する資料館）、佐喜真美術館、南風原文化センター、八重山平和祈念館、かでな道の駅、沖縄国際大学米軍ヘリコプター墜落記念碑などが含まれています。

沖縄県には沖縄戦終結5周年に建立された「平和の礎」がありますが、沖縄戦には全国全ての地域から兵士が召集されました。そのため、沖縄県には、遺族会などによって建立された全都道府県の慰霊碑があります。『トランセンド・ジャパン』のジャーナル第10巻、第1号、10～23頁によると、これらの都道府県の碑文は沖縄戦の悲劇を反映しておらず、中には「太平洋戦争」のことを「大東亜戦争」と記している記念碑もあります。

同論文は、沖縄県民に対する共感や友情についての表現のある記念碑は京都府の記念碑だけで、他の多くの記念碑には子どもたちの平和学習に役立つような内容が含まれていないということです。



安齋喜美江・育郎
(沖縄県平和記念資料館の前で)

日本語版追加資料

日本の憲政史上「稀代の悪法」と言われる「治安維持法」の改悪に反対して1929年に右翼の凶刃に倒れた衆議院議員・山本宣治の終焉の地（東京都千

代田区神田）に下の写真のような記念プレートが建立されました。



山本宣治 新設された記念プレート

東京山宣会が千代田区などに働きかけて実現したもので、2019年3月17日に除幕・記念式典が開催されました。

東京山宣会からは国際平和ミュージアムにもメッセージの依頼があり、謹んでお送りしました。

これに先立つ3月5日、京都府宇治市の山宣の墓前では「第90回墓前祭」が開催され、私安齋も参加しました。たくさんの人々の姿が見られました。



2019年3月5日に京都府宇治市の山本宣治の墓前で開催された第90回墓前祭

あの侵略戦争の時代に、身を賭して平和と人権のために闘った山本宣治のような日本人がいたことを広く海外に知らせることは、「和解」への芽を育む大切な活動でもあります。宇治市にはもう一人の治安維持法の犠牲者である韓国の詩人・尹東柱の「記憶と和解の碑」もあります。

『ジェネラル・コーディネータのデスクから』は、平和のための博物館国際ネットワーク（INMP）のジェネラル・コーディネータ（統括コーディネータ）を務める安齋育郎が周辺事情をミニニュースとして月刊でお届けするものです。

感想は➡ jsanzai@yahoo.co.jp へ